高きへ憧れる心

与謝野晶子

青空文庫

人間は大抵平地に住んでいる。それで天とか山とかを仰いで高い所へあこがれる心を、悠久な大昔の野蛮人が既に持っている。高い所に在るものは太陽でも、雲でも、月や星でもすべて美くしいものに感ぜられる。美くしいばかりでなく、気高いもの、偉いもの、神秘なものにさえ感ぜられる。神が天に住んで人間を司配すると考えて宗教が発生したのも、もとは此の高きにあこがれる心からであった。

美くしいものは地上にも沢山にある。園や野の花も美に富んでいる。人工で作った色色の物も美くしい。夜間のネオン・サインのような灯火も美くしく、第一に人間の美男美女が美くしい。それに関らず我我が彼の青空の色に心を引かれたり、秀でた山岳を望んで夏期に登山欲をそそられたりするのは、手近なものよりも、我身に遠い「美」が気高く偉いものとして感ぜられるからである。

実際、高い山などへ登って見ると、空気一つでも新鮮清涼で、地上の生活の俗気と炎熱とが急に一掃されるのを覚える。山上から俯瞰した大地の闊い景色も心を爽快にする。人間が高きに憧れる心を幾分でも満足させることの出来るのは、唯だ高い山に登る以外に方法がない。それだけ登山は楽しいものである。

併しどんなに高い山へ登っても、天は地上で望んだのと同じに依然として彼方に蒼蒼として高く、殊に山頂の澄徹した空気を透して見る日中の青空、夜間の星空は、地上で仰いだよりも幾倍か美くしく、山頂で観る者の心には天然の天文台に立っているような喜びが感ぜられる。近世の学問が人間を理智的にしたと云い、近世の文化が人間を物質的にしたと云うけれども、こう云う山頂の大観に触れると、人の心は地上生活の束縛から脱して、小さな事や、さもしい欲望などに拘泥せぬ、本然の玲瓏たる心が目を明き、誰れも一種崇高な霊感に打たれずにはいない。昔から釈迦を初め多くの聖者や修道士が山に入って悟る所があったと言うことも首肯される。実際に我我のような平凡人でも、山頂に宿って燦爛として且つ静粛な夜天の星群を望むと、心も身も共に浄まる気がする。私は心臓の痼疾があるので余り高い山へは登らないが、赤城山、高野山、満洲の千山などに登って此の霊感を経験した。

夏期に登山する人人は、涼を納れ暑を避ける目的の人もある。植物採集の人もある。地理の探険、気象の研究を志す人もある。また私のように歌を詠むのを目的とする人もあり、また多くの人の容易に踏まない所へ足跡を印して優越感を満足させようとする人もある。併し意識すると否とに関らず、誰れも「高きにあこがれる」と云う心もちが其中に強く働いているのである。

と云って山は如何に爽快でも其処に久しくは留まれない。人間はやはり人間が自然よりも余計に恋しい。或る日数以上、山に滞在すると寂しくてならない。山上の視野が闊いのに対して、人間の余りに孤小なことさえ感ぜられて寂しくなる。山には早く秋が来るので、八月の末頃まで山にいると、夜など泣きたいような心もちを覚える。高野山や吉野山に住んだ西行がしばしば京に帰って来たのも、こう云う人間思慕の心からではなかったか。

山から帰る心は浄められている。謂ゆる六根清浄である。この清く健かになった心を持って、新しく地上の生活に参加し活動する。そうして又彼の天の高きにあこがれ、登山の楽みを今年も試みようとする。

私はこのような考えから、毎年夏の半ばに幾日かを山の旅行で費している。今年は幸い九州の友人達から招かれているので別府の奥の由布岳、豊後の久住山、肥後の阿蘇山などを歴訪する予定である。

私が山へ行く心もちは、いつでも天の一部へ引上げられる快さである。

（昭和七・六・一〇）

青空文庫情報

底本：「紀行とエッセーで読む　作家の山旅」ヤマケイ文庫、山と溪谷社
　　2017（平成29）年3月1日初版第1刷発行
底本の親本：「優勝者となれ」天來書房
　　1934（昭和9）年2月1日発行
入力：富田晶子
校正：雪森
2020年4月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

高きへ憧れる心

与謝野晶子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/